

## 助産師教育におけるピアエデュケーションの試みと CUDBAS(クドバス)手法の活用の実際

### Attempts at peer education in midwifery education and the actual use of the CUDBAS method

大瀬恵子<sup>1</sup> 野々山英里<sup>1</sup>  
Keiko Ose, Eri Nonoyama

#### 要 旨

2020 年度以降、2 年次後期科目の女性の健康生活支援看護学Ⅱ(現在：母性看護学Ⅱ)技術演習において、4 年次助産師課程の同意の得られた学生に、技術演習の学生支援(ピアサポート)として参加を募った。2022 年度から 4 年次の「総合看護実習」と「女性の健康生活支援看護学Ⅱ(現在：母性看護学Ⅱ)」授業内容などの検討を重ね、助産学教育の中に、ピアエデュケーション(仲間教育)を試みた。ピアエデュケーション(仲間教育)を通して、知識・技術・態度を共有し合うことや、仲間と共感・共有する態度を体感することができ、身近で信頼できる仲間が教えてくれることで、演習に積極的に取り組み、興味・関心につなげることが期待できる。今回、CUDBAS(クドバス)手法を活用し、「母性看護を実践するために必要な能力」、「ピアエデュケーションに必要な能力」を明確化し、重要な能力を可視化したのち、2 年生対象の母性看護学Ⅱ技術演習の指導案を作成し、デモンストレーションを実施、技術演習の指導を行った。助産師教育におけるピアエデュケーションの試みと CUDBAS(クドバス)手法の活用から、学生は助産実践能力の向上や社会人への基礎的能力の修得、助産管理における人材育成のための教育力、健康教育や保健指導をする能力を養う機会となり、あらゆる対象者のニーズに対応できる多様な助産師の育成につながるのではないかと考えた。今回の取り組みを通して、今後も助産師教育における講義・演習・実習の工夫を重ねていきたい。

キーワード 助産師教育 ピアエデュケーション CUDBAS(クドバス)手法 母性看護学 健康教育

#### I はじめに

看護基礎教育は新たな時代の医療を支える人材を育成すべく、2022 年 4 月から保健師助産師看護師学校養成所指定規則(以下、保助館指定規則)のカリキュラムが施行された(厚生省労働省, 2019)。一宮研伸大学(以下、本学)は、看護学部単科の大学であり、看護師課程と助産師課程を持ち、看護師と助産師の育成を行っている。本学の卒業要件は看護師課程 126 単位、助産師課程は読み替え科目 4 科目(合計 8 単位)のほかに 23 単位の合計 147 単位を修得する。助産師課程履修 31 単位のうち、助産学実習は 11 単位を占める。保助館指定規則(厚生労働省, 2019)では、「実習中分べんのとおりあつかいについては、助産師又は医師の監督の下

に学生一人につき十回程度行わせること、この場合において、原則として、取り扱う分べんは、正期産・経産分べん・頭位単胎とし、分娩第一期から第三期終了より二時間までとする。」の要件がある。その他に、助産師に求められる実践能力と卒業時の到達度が定められ、助産実践能力を身につけた助産師を輩出することが望まれている(厚生労働省, 2019)。しかし、少子化(厚生労働省, 2023)、高齢出産(国立社会保障・人口問題研究所, 2024)、ハイリスク妊産婦・帝王切開術の増加(厚生労働省, 2023)により、学生が携われる対象者は限られ、臨地実習先の確保は困難を要し、限られた実習期間の中で分娩介助実習・地域母子保健、助産管理の実習を行わなくてはならない。

<sup>1</sup> 一宮研伸大学 看護学部看護学科 母性看護学・助産学

また、助産師は、女性の生涯を通じて女性のニーズに応えることであり、時に思春期や青年期を対象者とする健康教育においては、重要な役割を担っていく必要がある(坪川ら, 2013; 木戸ら, 2007; 大嶺ら, 1999)。このような実習の課題を抱え、どのように「学び」を補填していくか検討を重ね、本学では、ロールプレイやシミュレーション教育、視覚教材を駆使して助産師教育を行ってきた。

助産師課程の学生が 2020 年度以降、2 年次後期科目の女性の健康生活支援看護学Ⅱ(現在: 母性看護学Ⅱ)技術演習(妊婦の観察、褥婦・新生児の観察、授乳方法、沐浴)において、4 年次助産師課程の学生が技術演習のピアサポートとして参加し、充実した助産学教育になるよう取り組んできた経緯がある。

今回、ピアエデュケーションの試みと、CUDBAS(クドバス)手法を活用した助産師教育を実践したので報告をする。

## Ⅱ 助産師教育の概要

### 1. 助産師が求められている必要な能力

日本助産師会が「助産師の声明」(日本助産師会, 2021)において、助産師の定義や理念、倫理綱領、ならびに役割・責務を示している。また、助産師のコア・コンピテンシーとして、助産師に求められる必須の実践能力として 4 つの要素がある。

1 つ目に「倫理的感応力」とは、妊娠褥婦を尊重し、そのニーズを鋭敏にとらえて倫理的に応答することであり、助産師活動における道徳的義務を実践に反映する能力である。2 つ目に「マタニティケア能力」とは、分娩を核とするマタニティサイクルにおいて、安全で有効な助産ケアを提供することであり、妊娠期、分娩期、産褥期、乳幼児期における役割・責務を実践に反応する能力である。3 つ目に「ウィメンズヘルスケア能力」とは、女性の生涯を通じた支援者であるとともに、相互にパートナーシップを築くことであり、ウィメンズヘルスにおける役割・責務に反映する能力である。最後に「専門的自律能力」とは、専門職としてのパワーを組織化し、社会に発信することであり、助産管理および専門職としての自律を保つための役割・責務を実践に反映する能力である。「倫理的感応力」「マタニティケア能力」「ウィメンズヘルスケア能力」「専門的自律能力」は互いに連携し、循環的な関係にあると掲げている。

### 2. 助産師教育の基本的な考え方

看護基礎教育検討会報告書(厚生省労働省, 2019)では、1) 妊産じょく婦及び胎児・新生児の健康状態を診断し、妊娠・分べん・産じょくが

より健康で安全に経過し、育児を主体的に行えるよう、根拠に基づき支援する能力を養う。2) 性と生殖をめぐる健康に関する課題に対して、継続的に支援する能力を養う。3) 安心して子どもを産み育てるために、多職種と連携・協働しながら、個人及び社会にとって必要な地域の社会資源の活用や調整を行う能力を養う。4) 助産師の役割・責務を自覚し、女性と子ども並びに家族の尊厳と権利を尊重する倫理観及び専門職として自律する能力を養うとされている。

カリキュラム改正の目的と助産師として必要な基礎的実践能力については、看護基礎教育検討会報告書(厚生省労働省, 2019)で、明記され、今回の助産師教育見直しポイントは、①総単位数を 28 単位から 31 単位へ(総時間削除、助産診断・技術学 8→10 単位、地域母子保健学 1→2 単位、②助産師特有のテクニカル・スキル(手技)を技術項目とし、卒業時の到達度を新たに策定、③周産期のメンタルヘルスやハイリスク妊産婦への対応、正常逸脱の判断や異常を予測する臨床判断能力、緊急時対応の実践能力育成の助産診断・技術学の内容充実、④産後うつや虐待等の支援として、地域における子育て世代を包括的に支援する能力として、産後 4 か月程度までの母子のアセスメント能力強化のための地域母子保健内容を充実の 4 つである。

助産師教育における助産師に求められる能力について、看護基礎教育検討会報告書(厚生省労働省, 2019)では、「将来を担う助産師に求められる能力」をもとに、免許取得前に習得すべきもの及び到達すべき水準として「助産師に求められる実践能力と卒業時の到達目標」を検討している。また、卒業時に必要とされる助産師特有のテクニカル・スキル(手技)を技術項目として別途策定され「助産師教育の技術項目と卒業時の到達度」が挙げられている。

「助産師に求められる実践能力と卒業時の到達目標」の実践能力は、「助産における倫理的課題に対応する能力(母子の命の尊重)」、「マタニティケア能力(妊娠期の診断とケア、分べん期の診断とケア、新生児の診断ケア、産褥期の診断とケア、出産・育児期の家族のケア、地域母子保健におけるケア、助産業務管理)」、「ウィメンズヘルスケア能力(ライフステージ各期の性と生殖のケア)マタニティステージを除く」、「専門的自律能力(助産師としてのアイデンティティの形成)」の 4 つがある。

また、「助産師教育の技術項目と卒業時の到達度」においては、助産の実践に必要なとされている基本的な技術は、1)妊婦健康診査に係る手技、2)

分べん進行の診断に係る手技、3)分べん介助に係る手技、ハイリスク妊産婦が増加しており、助産師として緊急時や異常時早期対応できる実践能力の強化が必要とされたことから 4)異常発生時の母子への介入に係る手技が項目として設定されている。

### Ⅲ 助産師教育の取り組み

#### 1. ピアエデュケーションと CUDBAS 手法の導入

ピアエデュケーション(仲間教育)とは、“正しい知識・スキル・行動を共有し合うこと”である(日本ピアカウンセリング・ピアエデュケーション研究会, 2024)。ピアエデュケーションは、思春期教育や学内演習において効果があるとされ実践している(畠山ら, 2017; 丸岡ら, 2009; 大久保ら, 2020; 大島ら, 2022)。学生がピアエデュケーターとしての心構えをもち、どのような知識・技術・態度をもって臨むことが大切か理解し、学生と教員間で共有をしておく必要がある。

今回「母性看護を実践するために必要な能力」、「ピアエデュケーションを実践するために必要な能力」、あるべき姿を明確化し、重要な能力を可視化したのち、2 年生対象の母性看護学指導案を作成し、演習でデモンストレーションを実践することが重要であると考えた。

そこで 1990 年に森らで開発された職業教育で、養成しようとする人物の能力を書き出し、整理してカリキュラムを開発する方法(森, 2006; 齊藤, 森, 西村, 2023)の CUDBAS「CUDBAS(クドバス) = A Curriculum Development Based on Vocational Ability Structure」手法を活用し、「母性看護を実践するために必要な能力」、「ピアエデュケーションを実践するために必要な能力」、あるべき姿を明確化し、重要な能力を可視化することにした。

CUDBAS 手法は、企業・組織の人材育成に導入されており、国際協力機構(JICA)の技術協力プロジェクト、保健医療分野、ボランティア評価などを中心に活用されている(国際ジャーナル, 2019; 伊藤, 2009)。また、企業内教育では、自動車関係企業、電気製造企業などで導入され、研修プログラムに活用されている。さらに、医療・看護管理者の教育、クリティカルラダー作成に活用され、CUDBAS 手法は、人材育成やサービス業といった人材育成において幅広く適応ができる手法であり、必要な能力を明確化し教育するためのプログラムに活用されている(齊藤, 森, 西村, 2023)。

#### 2. 助産師教育の講義・演習・実習での工夫

##### 1) ピアエデュケーションの試み

2020 年度以降、2 年次後期科目の女性の健康生

活支援看護学Ⅱ(現在：母性看護学Ⅱ)技術演習(妊婦の観察、褥婦・新生児の観察、授乳方法、沐浴)において、4 年次助産師課程の同意の得られた学生に、技術演習の学生支援(ピアサポート)として参加を募った(表 1)。

表 1 技術演習項目

妊娠期	レオポルド触診法 子宮底測定 児心音の聴取
産褥期	退行性変化の観察 促進のための援助
	進行性変化の観察 授乳方法
新生児期	バイタルサイン測定 身体計測と観察
	身体の清潔(沐浴)

2020 年度以降、ピアサポートとして参加した助産師課程の学生数は、2020 年度 4 年次(1 期生) 1 名、2021 年度 4 年次(2 期生)4 名であり、2022 年度 4 年次(3 期生)の参加がなく 2022 年度 3 年次(4 期生)5 名の参加を得て技術演習を実施した(表 2)。

表 2 ピアサポートとして参加した助産師課程の学生数

年度 (期生)	2020 年度 (1 期生)	2021 年度 (2 期生)	2022 年度 (4 期生)
年次	4 年次	4 年次	3 年次
参加人数 (名)	1 名	4 名	5 名

2022 年度より準備を開始し、検討内容として、助産師課程の授業内容、授業進度、開講時期の見直しを行った。2 年次後期開講する女性の健康生活支援看護学Ⅱ(現在：母性看護学Ⅱ)の技術演習(第 1 回～第 5 回)を助産師課程の学生が演習計画を基に実践ができるように「総合看護学実習」の実習方法の検討を進めた。

2023 年度より、あらゆるステージの対象者に対して、健康教育・保健指導の実際を展開できる能力を養うという目的を掲げ、また助産学実習Ⅰ終了後の「総合看護学実習」の中に、看護・助産管理として人材育成と位置づけ、後輩育成として組み入れる内容に変更した。また、4 年次「総合看護学実習」の時期と新カリキュラムにおける 2 年次母

性看護学Ⅱ技術演習の時期を同時期に調整した(表3)。そのことで、4年次助産師課程の学生における「総合看護実習」期間内に母性看護学Ⅱ技術演習の指導案を立案・作成し、技術演習を実施することが可能になった。

2024年度から母性看護学Ⅱ(講義名変更)においては、2024年度4年次(5期生)が助産師課程の学生が中心となり、母性看護学Ⅱ技術演習の実践を行った。また、2024年度から新カリキュラムにおける助産師教育が開始された。2024年度3年次(6期生)後期開講科目「助産診断技術学Ⅱ」は、1単位増え3単位90時間となり、全42コマの講義・演習科目である。授業内容は、分娩期を中心とする助産実践能力と出産準備教育の企画・運営の習得である。本学は、学部における助産師育成であり、切れ目のない学修、つまり、母性看護学から継続的に学修できることが強みであると考え、「助産診断技術学Ⅱ」の授業時間に7コマを、健康教育の企画・運営の基礎的能力の習得に位置づけ、母性看護学Ⅱ技術演習にピアエデュケーターとして参加できるようにした。

表3 総合看護実習と母性看護学Ⅱ実施計画

9月中旬 から 10月 下旬	総合看護実習 (4年次) 助産師課程:5名	母性看護学Ⅱ (2年次) 約80名
実習 1週目	母性看護学Ⅱにおける ピアエデュケーション とは(CUDBA手法) 企画・運営立案 指導案作成	
実習 2週目	臨地実習 指導案作成	
実習 3週目	母性看護学Ⅱ 第1回目講義参加 レディネスの把握 事前課題の確認	第1回(授業開始) 技術演習オリエン テーション 事前課題の確認
	デモンストレーションの 確認 指導案の修正	
	実践(1日目) デモンストレーション 技術演習指導	第2・3回 A組:午前2コマ B組:午後2コマ
	実践(2日目) デモンストレーション 技術演習指導	第4・5回 B組:午前2コマ A組:午後2コマ

## 2) CUDBAS(クドバス)手法の活用の実際

CUDBAS手法とは、1990年に森らで開発されたCUDBAS「CUDBAS(クドバス)=A Curriculum Development Based on Vocational Ability Structure」がある。これは、職業教育で養成しようとする人物の能力を書き出し、整理してカリキュラムを開発する方法である。この手法の特徴は、①早くできる②分析の仕方や言葉のまとめ方など、手続きが簡単である。③メンバー同士がお互いに何を考え、何を求めているかを知ることができる特徴があり、職業能力内容として、大切にしている「知識」「技術」「態度」の視点から能力を言語化し、能力の高い内容から順に並べていくことで、優先して修得すべき能力、重要な能力、そして指導案を作成するための教材化を容易にすることができる(大瀬, 2023)。

2年生対象の母性看護学Ⅱ技術演習の指導案を立案・作成し、演習ではデモンストレーションや技術演習の指導について、助産師課程の学生が個々の意見を共有、反映させながらグループで取り組むことが実習の課題であり、その課題についてCUDBAS手法を活用することは効果的ではないかと考えた。そこで、「母性看護を実践するために必要な能力」、「ピアエデュケーションを実践するために必要な能力」を明確化し、重要な能力を可視化したのち、指導案の立案・作成やデモンストレーションや技術演習の指導を実施した。

2024年度3年次(6期生)助産師課程の学生は、助産診断技術学Ⅱにおいて、「母性看護学の技術演習に参加するにあたって、ピアエデュケーターとして必要な能力は何か?」を、CUDBA手法で可視化し、ピアエデュケーターとして役割、必要な能力を認識した上で、母性看護学Ⅱ技術演習に臨んだ。その後に、能力マップ作成し、自己評価表の作成を行った。

### (1) CUDBAS手法の実施概略

森(2008)のCUDBAS手法を参考に実施概略を説明する。

必要物品として模造紙と同等のテーブルと模造紙、付箋(ピンク:「能力カード」とブルー:「仕事カード」)を準備する。

①1グループ人数は、5名程度で実施する。

②問いに対して、あるべき姿などを具現化するためホワイトボードやA4用紙に記録し、グループメンバー同士で5分程度話し合い、共通認識をする。

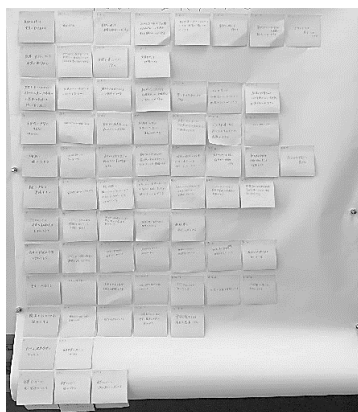
③今回の問いは「母性看護学の技術演習でどのような能力が必要か?身に付けなくては行けないか?」に対して、ひとりブレインストーミングを行い、ピンクの付箋(能力カード)20~30枚を記入

した(30分程度)。語尾は「できる」「知っている」「態度がとれる」で記入するようアナウンスした。  
④ピンクの付箋(能力カード)1人20~30枚を類似した能力をグルーピングしたあと、左から重要度の高い順に並べ直した。  
⑤意見交換しながらグルーピングされた能力にネーミングしブルーの付箋(仕事カード)に記入した。  
⑥「母性看護学の技術演習でどのような能力が必要か?身に付けなくては行けないか?」重要度の高い順に上から下に並べ直し、順番を記入しクドバスチャートを完成させた(図1)。



図1 クドバスチャート作成過程

⑦「母性看護学の技術演習でどのような能力が必要か?身に付けなくては行けないか?」について、発表(図2)を行い、その後、演習内容の精選、デモンストレーションの内容を検討し、指導案の立案・作成を実施した。



☆左端1列目のみ  
ブルーの付箋  
(仕事カード)  
☆ピンクの付箋  
(能力カード)

図2 クドバスチャート完成

### 3. ピアエデュケーションの応用と実際

2023年度より、助産学演習4年次(4期生)前期科目では、思春期・青年期における健康教育の企画を行い、学内演習で健康教育の発表を行っている。2024年度4年次(5期生)においては、助産学演習に加え、助産学実習Ⅱでは、本学の大学祭(研伸祭)でブースを持ち、「親子で学ぶ自分のカラダ・月のものってなあに?」のテーマで、月経教育を行った。

また、近隣高校(2校)から模擬(出前)講義の依頼があり、「助産師の仕事、役割について」のテーマから、助産師課程の教員とコラボレーションし、体験学習を実施した。内容としては、思春期の特徴、月経への対処方法、出産場面のロールプレイを通して、命の誕生のキセキ、多職種との連携について模擬授業・体験学習を実施した。今年度は、ボランティアとして学生は参加することになったが、ピアエデュケーターとしての役割を発揮していた。

女性の生涯を支え、そのニーズに応えることのできる助産師の育成のために、高校における思春期の健康教育を実施することの意義は大きい。今後は、助産学実習における健康教育の実践が継続的にできるように、実習内容の検討、地域の高等学校と連携を図り、健康教育ができるように構築をおこなっていく予定である。

### Ⅳ まとめ

助産師課程の学生におけるピアエデュケーションの試みとCUDBAS手法の活用について、教育実践を行った。

2020年度から、女性の健康生活支援看護学Ⅱ(現在:母性看護学Ⅱ)の技術演習のピアサポートとして学生のボランティアでの参加募集をスタートした。2022年度から4年次の「総合看護実習」と「女性の健康生活支援看護学Ⅱ(現在:母性看護学Ⅱ)」授業内容などの検討を重ね、助産学教育の中に、ピアエデュケーション(仲間教育)を試みることができたことで、知識・技術・態度を共有し合うことで、仲間と共感・共有する態度を体験することができた。2年生においては、身近で信頼できる仲間が教えてくれることで、積極的に演習に取り組むことができ、興味・関心を持ち学修つなげることが期待できる。

ピアエデュケーションの実施においては、ピアカウンセリング・マインドとスキルを用いて、受講生と同じ目の高さでミニ教師ではないピアエデュケーターとなることが重要であり、可能な限り、仲間と共感・共有しながら、堅苦しくない雰囲気の中で重要な情報を普及・啓蒙していくことを目指すことであると述べている(日本ピアカウンセリング・ピアエデュケーション研究会, 2024)。

今回、CUDBAS手法を活用し、「母性看護を実践するために必要な能力」、「ピアエデュケーションに必要な能力」を明確化し、重要な能力を可視化したのち、2年生対象の母性看護学Ⅱ技術演習の指導案を作成し、演習ではデモンストレーションや技術演習の指導を行った。CUDBAS手法は、助産師課程の学生の個々の意見を共有、反映させ

ながら、グループで取り組むことができ、ピアエデュケーションとしての心構えや指導案の立案・作成する際に活用することができた。

ピアエデュケーションや CUDBAS 手法の活用から、学生は助産実践能力の向上や社会人への基礎的能力の修得、助産管理における人材育成のための教育力、健康教育や保健指導をする能力を養う機会となり、あらゆる対象者のニーズに対応できる多様な助産師の育成につながるのではないかと考えた。今回の取り組みを通して、今後も助産師教育における講義・演習・実習の工夫を重ねていきたい。

## 利益相反

本報告では利益相反は存在しない。

## 文献

- 畠山美怜, 佐野京子, 長谷川ともみ. (2017). 思春期ピアカウンセリング・ピアエデュケーション活動がピアカウンセラーへ及ぼす影響についての文献研究. 富山大学看護学誌, 17(1), 39-48.
- 伊藤雅治(監), 斎藤寿一(編), 奏温信, 細田洋一郎, 平出敦, 森和夫. (2009). 第2章カリキュラムプランにおける CUDBAS の適用, 指導医と研修医で構築する新しいカリキュラム開発—ワークショップでの CUDBAS の展開とさまざまな医療職への応用—. pp.11-30, 篠原出版新社.
- 木戸久美子, 林隆, 藤田久美. (2007). 思春期ピアカウンセリングによるピアエデュケーション実施後のライフスキルの獲得に関する研究. 山口県立大学社会福祉学部紀要, 13, 123-130.
- (株)コーエイリサーチ&コンサルティング (2019). CUDBAS 手法を活用した育成, 国際ジャーナル, 50-51.
- 国立社会保障・人口問題研究所. (2024). 人口問題統計集 2024 年版  
<https://www.ipss.go.jp/syoushika/tohkei/Popular/Popular2024.asp?chap=>  
[2024/12/6 閲覧]
- 厚生労働省(2019/10/15). 看護基礎教育検討会報告書.  
[https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_07297.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_07297.html)  
[2022/7/6 閲覧]
- 厚生労働省(2020/10/30). 保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部を改正する省令の公布について(通知)  
[https://www.mhlw.go.jp/web/t\\_doc?dataId=00tc5425&dataType=1&pageNo=1](https://www.mhlw.go.jp/web/t_doc?dataId=00tc5425&dataType=1&pageNo=1)  
[2022/9/9 閲覧]
- 厚生労働省(2023). 令和 5(2023)年度人口動態統計月報年計(概数)の概況: 出生数  
<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/geppo/nengai23/index.html>  
[2024/12/6 閲覧]
- 厚生労働省(2023). 令和 5(2023)年医療施設(静態・動態)調査(各定数)・病院報告の概況.  
<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/iryosd/23/> [2024/12/6 閲覧]
- 丸岡里香, 百々瀬いづみ, フランク, 他. (2009). 教育課程に活用するピア・エデュケーション活動の効果と課題. 北翔大学北園学術情報センター年報, 1, 33-38.
- 森和夫(2006). 職業教育カリキュラム開発の手法 CUDBAS の普及と改良, 産業教育研究, 36(1), 38-39.
- 森和夫. (2008)『人材育成の「見える化」上巻企画運営編』. pp. 66-121, JIPM ソリューション.
- 日本助産師会. (2021). 助産師のコア・コンピテンシー  
<https://www.midwife.or.jp/midwife/competency.html> [2022/10/6 閲覧]
- 日本ピアカウンセリング・ピアエデュケーション研究会 <http://www.jpcaea.net/pia.html>  
[2024/8/22 閲覧]
- 大久保牧子, 福島裕子. (2020). 高校生の対人関係能力を高めるために看護系大学の学生が行ったピア・エデュケーションの効果. 岩手看護学会誌, 14(1), 63-73.
- 大嶺ふじ子, 浜本いそえ, 小渡清江, 他. (1999). 高校生の性知識・性意識を高めるためのピア・エデュケーションの研究. 日本看護科学会誌, 19(3), 64-73.
- 大島紀人, 荒井穂菜美, 落合舞子, 他. (2022). 大学生同士の支え合いを広げるピアエデュケーションの効果. CAMPUS HEALTH, 59(2), 32-37.
- 大瀬恵子. (2023). 齊藤ゆか, 森和夫, 西村美東士(編). 学びの見える化. 第5章学校における学びの見える化実践 3. 助産師教育の問題と実習教育の課題. pp. 215-227, 勁草書房.
- 齊藤ゆか, 森和夫, 西村美東士(編). (2023). 学びの見える化. 勁草書房.
- 坪川トモ子, 渡辺典子, 田崎充子, 他. (2013). 性教育における助産専攻学生による高校生に対するピアエデュケーションの効果. 新潟青陵学会誌, 6(1), 35-45.